

## 令和4年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立蒲田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ 2学年は、粒子領域、生命領域で目標値を達成することができた。これは、基礎学力の定着を図るため、限られた時間の中で復習を効率的に行ってきた結果であると考ええる。
- ・ 3学年は、基礎・活用、3観点とも、区平均を上回ることができた。本校の理科授業改善推進プランの有効性を示す結果といえる。

#### (2) 課題

- ・ 1学年は、明らかに全国平均・区平均を下回っており、定着率が低いといえる。本校授業改善プランを基に授業改善を確実に進めていく。
- ・ 2学年は、基礎に比べ活用において大きく目標値及び区・全国平均を下回っている。本校授業改善プランを基に授業改善を確実に進めていく。
- ・ 3学年は、全体的に区平均を上回っているが、学習内容の活用に関しては全国平均と比べると、まだ下回っている。基礎の定着率を維持しつつ、思考力を養っていく必要がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	基礎と活用の両方で、全国・区平均、目標値を明らかに下回っている。また、各4領域においても全国平均を大きく下回っている。(第1学年入学時)	/	/
第2学年	基礎と活用の両方で、全国・区平均、目標値を明らかに下回っている。しかし、粒子及び生命の領域においては目標値を上回っている。(第2学年時)	基礎は、全国・区平均、目標値を明らかに下回っている。活用も、全国・区平均を明らかに下回っている。全体として、全国・区平均、目標値を明らかに下回っている。(第1学年入学時)	/
第3学年	基礎は目標値や全国・区平均よりも上回っている。活用は目標値と区平均は上回っているが、全国平均には届いていない。(第3学年時)	基礎は、全国・区平均、目標値を大きく上回っている。活用は、全国・区平均、目標値を明らかに上回っている。全体として、全国・区平均、目標値を大きく上回っている。(第2学年時)	基礎は、区平均・全国平均を下回っている。活用は、区平均・全国平均を大きく下回っている。全体として区平均・全国平均を大きく下回っている。(第1学年入学時)

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国・区平均、目標値を大きく下回っている。	全国・区平均、目標値を大きく下回っている。	全国・区平均、目標値を大きく下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国・区平均、目標値を大きく下回っている。	全国平均からは大きく下回っているものの、目標値を極僅かに下回っている。	全国平均からは大きく下回っているものの、目標値を僅かに下回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区平均、目標値を大きく上回っているが、全国平均と比較すると僅かに届いていない。	区平均、目標値を上回っているが、全国平均と比較するとやや下回っている。	区平均を上回っているが、目標値、全国平均と比べるとやや下回っている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒の興味を高める実験観察教材をより準備し、開発する。技能を高める復習用実験及び演習実験教材を、一層開発し実行する。実験における技能の評価を工夫する。	実験や問題演習において生徒の活用力を高める活用課題を一層開発し工夫する。応用問題を無理なく効果的に考えさせる工夫をより行う。	教科書の要点まとめを用いた予習課題により、主体的に授業に参加させる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒の興味を高める実験観察教材をより準備し、開発する。技能を高める復習用実験及び演習実験教材を、一層開発し実行する。実験における技能の評価を工夫する。	実験や問題演習において生徒の活用力を高める活用課題を一層開発し工夫する。応用問題を無理なく効果的に考えさせる工夫をより行う。	教科書の要点まとめを用いた予習課題により、主体的に授業に参加させる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>全体的に基本的な知識・技能は身に付いているが、グラフを用いて表現する能力に苦手意識がある。観察・実験によって得られたデータを、グラフを用いて考察する機会を増やす。</p>	<p>自分の考えを文章で表現する能力に苦手意識がある。観察実験などを通して、自分の考えを整理し、表現する時間を多く取り入れる。 ホワイトボードやICT機器を活用して発表の機会を増やしていく。</p>	<p>毎回の授業の記録をとり、各授業で何が理解できなかったのかを自分自身で把握することができ、自分で学習しやすくなるような工夫をする。 定期試験後に自分の解答の誤答分析を行うことで自分自身で弱点の把握ができる工夫をする。</p>